

マイコプラズマ感染症

☆原因と症状☆

マイコプラズマに感染して起こり、一般的にはマイコプラズマ肺炎として知られています。咳を主な症状とした急性呼吸器感染症です。咳以外の症状としては、発熱や頭痛、体のだるさ、のどの痛みなどです。風邪の症状と似ていますが、鼻水はあまり出ず、乾いた咳が長く続くのが特徴の1つです。潜伏期間は2～3週間とも言われています。

乳幼児にも感染しますが、年長児や学童などに比較的多く見られます。

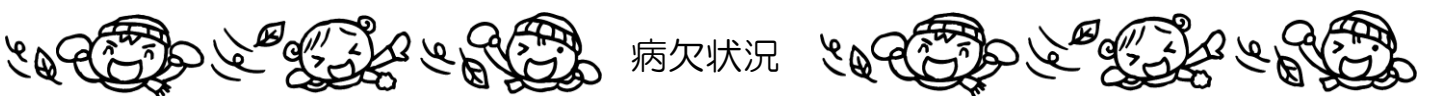
咳が長引く場合には、肺炎を起こしている場合があります。

☆治療☆

抗生剤を使います。しかし、最近では抗生剤に耐性のある菌が出てきており、薬が効かないために、症状が長引いている例も見られます。

☆ケアと注意点☆

- ・咳が長引く時には、病院を受診します。
- ・感染は、唾液などが飛んでうつる飛沫感染と飛沫のついた手などが触れることによってうつる接触感染です。
- ・園や学校などでは集団感染しやすいので注意が必要です。
- ・予防のためには、手洗い・うがいを心がけることが大切です。また、咳が出る場合にはマスクをしましょう。
- ・マイコプラズマ肺炎は、秋から冬にかけて多く見られますが、1年を通して発症しています。



1月16日～1月20日までの病欠人数は、28名でした。

インフルエンザも少しずつ人数は減少していますが、まだまだ流行しているので、手洗い・うがいなどの予防、また咳が出ている場合はマスクをし、感染を防ぎましょう。